

ひだまり



MOTHERTH

MOTHERTH NURSINGHOME FOR THE AGED

くさのね

社会福祉法人マザアス

理事長 高原 敏夫



左からイウンジョン理事長、高原理事長、ソヒェヨン事務局長、イギボツ院長

「草の根活動」という活動があり、民間で連帯、連携をおこなって、横の繋がりを重視する活動である。綺麗な花にはしっかりした根があり、根同士が助け合っている故に、地上の花が輝いた存在になることから来ているのであろう。

我が法人は韓国京畿道にある「社会福祉法人 平安の家」と平成24年4月12日に交流協定を締結して、4～5人1組で年1回相互に交流してきた。

この法人は昭和58年林野4千坪と30坪の住宅を購入し、梨の木1700本植えて高齢者支援を開始したそうだ。法人認可は平成3年で今年は25年経過したことになる。10月13日「社会福祉法人平安の家創立25周年式」に招待され、衣川常務理事と参列してきた。野外で、しかも夕方からの式典にもかかわらず100人余の参列者があり、この法人がしっかり地域に根をはり、多くの善意に支えられて成長してきている様を見せられたように感じた。

実は「社会福祉法人マザアス」も平成26年10月18日法人創立20周年式に「平安の家」から、イウンギョン理事長の他2名駆けつけて祝辞をいただいた経緯があった。両法人には幾つかの共通項目がある、法人設立時期、高齢者福祉が主事業、規模も同程度、首都の郊外に存立等がそれであり、国としても高齢化問題、介護保険、認知症ケア等も共通している。

9月7日の朝日新聞は2ページ全面に、韓国観光公社の広告があった。「アナタの笑顔のすぐそばに韓国」「距離も、心も、日本に一番身近な国、韓国」とあった。相互の交流によって、一番身近な国に沢山友人ができたし、高齢者福祉の実情を学び、異文化にふれてよい刺激が与えられ、自らを省みる機会となっているように思う。

来年は交流開始5周年になるので、この機会に韓国で記念の集いを開催することになり、その為の準備をしなければならない。

距離、時間、言語を乗り越えて、お互いに笑顔をみたいものである。このような努力によって、また長い時間をかけることによって、華麗な花が咲くことを信じて。

寄付文化を根付かせるには

Q1.一年間に個人が行った寄付の総額は？

A1.2014年度は7,409億円と言われています。東日本大震災の前は5,000億くらいでしたので1.5倍ほどに増えています。

Q2. 諸外国と比べると？

A2.まだまだ少ないのが現状です。



イギリスの団体が寄付をする人の割合などをもとに、毎年世界各国の寄付活動ランキングを出しています。



日本は、145カ国中102位です。

ミャンマーは信仰心の篤い国ですので国民の9割以上が寄付を行っているそうです。

Q3.寄付の妨げになっている要因は？

A3.総務省が行った調査では以下のとおり。



Q4.行政の対策は？

A4.寄付活動の推進のため、2011年に税制改正されて「寄付金控除」が受けられるようになりました。

<寄付金控除のポイント>

①税額控除は大きなメリット

所得税から寄付額の40%の控除

住民税から寄付額の最大10%控除

→最大で寄付額の50%弱が控除される。

②寄付者が確定申告を行わなければならない。

下図の例では、認定法人に対して5万円寄付していますので、(地方税10%適用として)最大2万4千円が税額控除されます。(寄付者の実質的な負担は2万6千円)



寄付者が5万円寄付したことによって、間接的ではあるが、自分の税金のうち、2万4千円を応援したい法人のために捻出させることができたといえます。

新寄付税制による税制優遇は、「自分が応援したい社会福祉法人のために税金を使わせる」ことができる具体的な手段なのです。

この寄付制度が活用されることによって、より多くの税金が、「みんなが望むこと」に使われるようになってほしいと思います。

法人本部事務局長 黒澤信一

(参考・出典)NHKくらし☆解説、認定ろうNET

編集後記

社会福祉法人マザアスは東京都所轄区分の寄付金控除対象法人です。

皆様からのご寄付に支えられて、これからも地域福祉の推進に努めてまいります。

(編集担当 黒澤信一 メール: office@moth.or.jp)

マザアス日野の地域における公益的な活動/社会貢献活動

社会福祉法人の責務

マザアス日野の取り組み

前号では東久留米事業所の地域における公益的活動についてご紹介しました。今号では、日野事業所の活動について、その一旦をご紹介します。

①あったカフェ（認知症カフェ）

昨年度から新たに取り組みました。認知症の当事者やご家族、地域の方、専門職の方など、誰もがゆったりと過ごせる



都営住宅の1階です

場所、認知症のことについて地域の方との情報交換の場としても活用いただくことを想定しています。



時には満席のことも

す。認知症になっても安心して暮らせる地域づくりが目標です。毎週水曜日のみの開店ですが、1年を経過した今では、毎週必ず来店して下さる方もいらっしゃり、居場所として定着しつつあります。こちらでも地域のボランティアの方々に支えられています。毎回運営に携わっている職員は1~2名のみ、ほぼボランティアの皆様のお力で運営して頂いていると言っても過言ではありません。ボランティアさんとお会いする事、お話しすることを目的に



ボランティアさんによって
支えられています

店される方も多くいらっしゃいます。

自分の居場所がある、自分のことを知ってくれている人がいる、困った時に相談できる人が

いる。とても大切な事であると改めて気づかされます。

②地域の講座等へ職員を派遣

ご近所の皆様を対象として、できるだけ介護が必要な状態にならない様に日常生活上の留意



機能訓練指導員による「健康体操」

点等をお知らせする講習会で、施設に勤務する機能訓練指導員や管理栄養士が講師として参加しています。運動機能が落ちないように日頃からできる訓練はどのようなものがあるか？食と認知症の関



管理栄養士による「食と認知症」

係は？等、様々な角度からお話をさせて頂いています。ご近所の方が少し

でも長くお元気で過ごせるよう、何かあった時「そうだ、マザアスがある」と思って頂けるよう、活動しています。マザアス日野が持つ専門性を地域に還元する活動の一つです。「施設にはこんな専門家がいます」と、施設を知るきっかけや、我々を活

用して頂けることも期待しています。

③お弁当の配達（配食）

平成16年から365日、台風の日も雪の日も、一日も休むことなく施設の手作り弁当を配達しています。一人暮らしや高齢の



1日平均50食の配達です

み世帯の方は、栄養バランスの偏り等で、体調を崩すことが珍しくありません。施設の管理栄養士が栄養のバランスを考慮して献立を作成しています。施設で提供している食事と同じく、召し上がる方の状態や体調に応じてお粥等の食形態に配慮して調理します。そして、市内の配食事業で唯一、糖尿



季節感や食べる楽しみも大切です

病食等の治療食にも対応しています。配食は配達を担ってくださるボランティアの皆様によって

支えられています。この配達は、食事をお届け頂く事だけに留まらず、配達時の安否確認も重要な意味を持っています。

配達時に応答がないこと

をきっかけに、自宅内で具合が悪くなっているところを発見、救急車を要請して病院へ搬送するこ



大みそかには、おせち料理を
100食配達します

ともありました。また、ボランティアさんと顔なじみになり、お弁当と同じくらい、ボランティアさんとお会いすることを楽しみにされている方も多くいます。

施設の専門職が食事を作り、それを地域の方の協力を得て、地域の方へ配達頂く。施設の資源を活かし、地域の協力を得て、地域と施設を繋ぐ活動です。

④若年性認知症の会

若年性認知症の方は、当事者の方も家族介護者の方も、高齢期の認知症とは異なる多くの悩みを抱えることが珍しくありません。周囲の理解を得られず、相談もできないまま、悩みを抱え孤独に陥ることが無いよう、当事者の方やご家族の方

が、安心して心の内を語ることが出来る場として、若年性認知症当事者と家族の集い「芽吹き」の会を定期的に開催しています。定例会の他にも、他機



皆さんと一緒に
鉢植えの手入れ

関との連携、医師の情報や年金等に関する勉強会、茶話会や忘年会にボーリング大会等、様々な活動でボランティアの皆さんと一緒に、若年性認知症当事者やそのご家族をサポートしています。ひだまりNo.75でもご紹介しています。このような継続的な活動もあり、平成28年11月から（予定）は、東京都から東京都多摩若年性認知症総合支援センターの設置を委託されることとなりました。

ご紹介した活動の他、多様化する社会の中で、様々な支援策からも漏れてしまう方、貧困の連鎖への対応等、我々が地域の皆様のお役に立てることは何かを考え、今後も実践を続けます。

（マザアス日野 施設長 古谷晋）